

コスモス健康通信

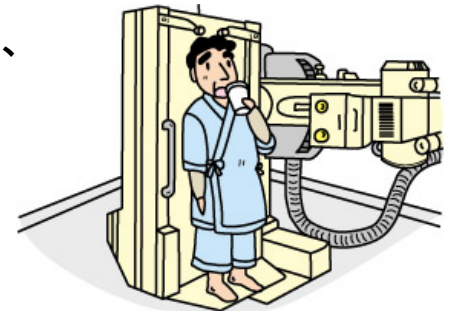
検診で精密検査が必要と言われたら ～がん検診の場合～

検診で精密検査が必要とあれば心配になるものです。高血圧、糖尿病、コレステロールなどはよく知られていますが、今回はよく行われる「がん検診」について説明いたします。

Q. 胃がん検診とは？

◎胃透視:バリウムという白い液を飲んで、胃の中をレントゲンで写す検査です。胃の中の凹凸を見るので、早期の胃がんや小さい病変などでは見つかりにくいこともあります。

◎ペプシノーゲン検査(血液検査):直接に胃がんの有無を調べるのではなく、慢性胃炎による胃粘膜の萎縮を表します。胃粘膜の萎縮が進行すると、胃がんが発生しやすくなります。



Q. 大腸がん検診とは？

便潜血反応(便の検査):便に含まれている微量の血液を調べる検査です。

大腸がん以外にも、大腸のポリープや憩室、腸炎、痔などでも異常が見られることもよくあります。

Q. 肺がん検診とは？

胸部レントゲン:肺の上端や下端、心臓の影に隠れた所はよく見えないこともあります。

縦隔(右と左の肺の間)の異常が見つかることもあります。



Q. 前立腺がん検診とは？

PSA(血液検査):男性に発生する前立腺がんの検査です。前立腺がんは他のがんと比べても高齢者に発生しやすいがんですが、この数値が高いと前立腺がんが疑われます。

Q. 乳がん検診とは？

乳がん触診:乳がんは女性の病気ですが、まれに男性にも見られます。日頃の自己触診が有効ですが、触診だけではしこりが見つかりにくいこともあります。

がんの精密検査についてのQ&A

Q. 胃がんの精密検査が必要と言われたら？

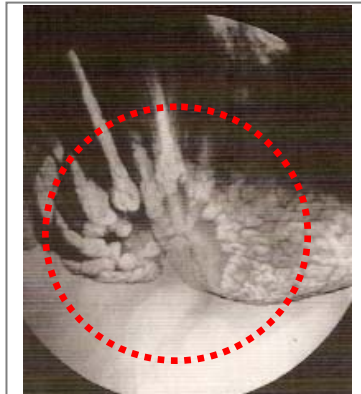
胃透視またはペプシノーゲン検査で異常が見られたら、細い管を用いて直接に胃の中を見る『胃カメラ検査』が必要です。前日の夕食も軽めにしておき、朝、起きた時から何も食べない状態で検査を受けます。

胃透視の写真



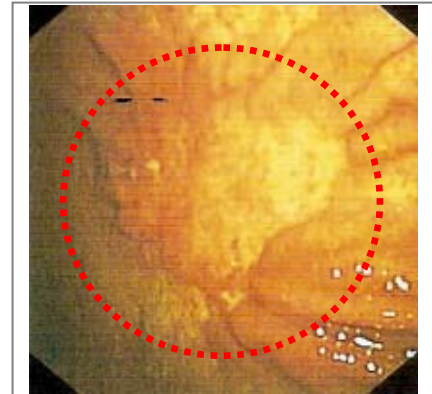
バリウムを飲んでレントゲンをとると、胃が写ります。胃は写真のように中央がくびれた形になります。

胃透視の拡大写真



バリウムで胃がんが写っています。胃透視で胃がんを見つけるには、ある程度の大きさが必要です。

胃カメラの写真



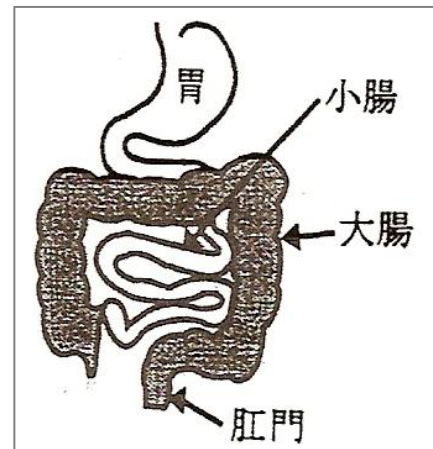
胃カメラでは直接、胃がんを見ることができます。中央の白い部分が胃がん部位で、浅い陥凹となっています。胃カメラの施行中に異常な部位の細胞を一部採取して調べること、がん細胞を確認できます。

Q. 大腸がんの精密検査が必要と言われたら？

便の潜血反応は大腸がん以外でも陽性のことが多いので、再検査や大腸がんの血液検査が必要です。

疑わしければ大腸カメラを行います。

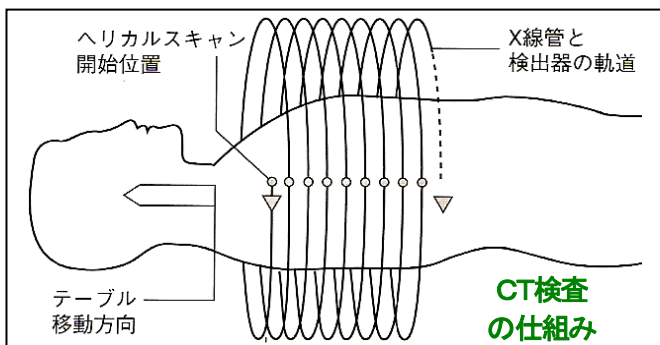
この検査は、前日より下剤を飲んで、便が残らないような食事などの準備も必要ですので、検査の予約をとります。



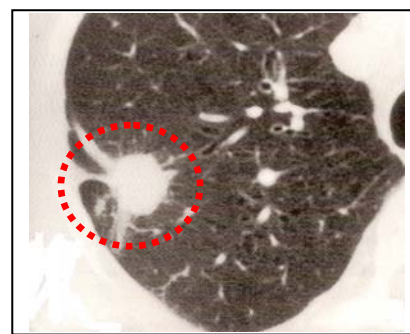
左図のように、食べた物は胃から小腸を通して、大腸にまで到達すると便になります。大腸には便が残しやすいので、大腸カメラの前には十分な下剤が必要です。

Q. 肺がんの精密検査が必要と言われたら？

胸部のCT検査を行います。これは楽な検査で通常は絶食も不要です。これで異常があれば、さらに細胞検査などが必要になることもあります。



左図のように回転しながらレントゲン撮影を行うことで、輪切りの写真がとれます。横になったままレントゲンを撮るだけなので、検査の痛みもほとんどなく3分くらいで終わります。



中央左の大きい白い円形部位が肺がんです。黒い部分が正常の肺で、他の多数の白い部分は血管などです。CTでは、レントゲンでは見ることができない心臓や横隔膜などの陰になっている部分も見ることができます。

Q. 前立腺がんの精密検査が必要と言われたら？

直腸診による前立腺の触診と、CT や超音波による前立腺の検査が必要です。特に超音波検査の前は、排尿を控えてなるべく膀胱を拡張させた方が前立腺が見えやすくなります。

Q. 乳がんの精密検査が必要と言われたら？

乳腺の超音波検査や乳腺撮影を行います。これらは楽な検査で通常は絶食も不要です。これで異常があれば、細胞検査などを行います。